令和３年度

学校だより
３月号

かわかみ

令和４年２月２８日

横浜市立川上小学校
横浜市戸塚区秋葉町203－２　電話 811-9345　FAX811-5961

終わりもよければ　すべてよし

学校長　　堀部　尚久

柔らかな陽ざしに包まれ、木々の芽も一段と膨らみを増してきました。５日（土）は二十四節気のひとつ「啓蟄（けいちつ）」です。これまでじっと地中で冬眠をしていた虫たちが、徐々に姿を現す時とされています。

明日から、弥生３月、創立１３０周年の特別な年であった令和３年度の最終月となります。各学年では、一年のまとめとともに、進級や進学の準備をする時期となりました。子どもたちには、この一年間の自分を振り返り、自分は何ができるようになったのか、そして自分はどんなことに自信をもてるようになったのか、また、進級や進学を機に努力していくことは何かなど、自分のことをよく知り、さらに輝いていくために必要な準備をする大切なひと月にしてほしいということを話してきました。この時期だからこそ、これまでの自分の成長を実感し、自分に自信をもつとともに、次のステップでの目標を見出す準備をしておくことが大切だと考えるからです。

１８日（金）には、第１３０期卒業生として６年生４７名が巣立ちの日を迎えます。卒業生にとっては、川上小での６年間の学校生活で、仲間と共に学び身に付けてきたこと、できるようになったこと、そして、多くの人たちに教えられ育まれてきたこと、そのすべてがこれからの成長に繋がっていくものと信じています。卒業を前にしたこの時期、これまでは校長室でグループに分かれた６年生と共に給食をいただきながら、小学校での思い出や進学したらやってみたいと思うこと、将来の夢や目標などについて話題とし、束の間のひとときを過ごしてきましたが、本年度もまたそうした時間をもつことが叶わなかったのが残念です。それでも、子どもたちが卒業文集に綴った文章を読み込むと、一人ひとりにかけがえのない価値ある思い出がつくられているということ、様々なかかわりを通して、仲間としての友達や、成長を支えていただいた多くの大人に出会えているということ、そしてさらに、これから始まる中学校での学びや生活、たくさんの人との出会いなどを、とても楽しみにしているという思いが素直に伝わってきました。この一年間、下学年の児童から川上小の憧れであり続けた６年生が、一人ひとりこうした思いを胸にして巣立ちの日を迎えようとしていることは、本当に嬉しい限りです。

「終わりよければすべてよし」という言葉があります。「物事は、最終の結末がすべてである」という意味です。この言葉の底流には、「途中でいろいろなことがあったけれど、最後がよければ全部をよいことにしよう」という意味もあるのかも知れません。長引くコロナ禍の影響を受けながらも、皆様のご理解とご協力の下、本校が様々な工夫を講じて特別な年の教育活動を重ね続けてきた日々には、「子どもにとって」をベースとする教職員の子どもたちへの大きな成長を願う期待が込められています。そうした期待に、本校の子どもたちがしっかりとこたえ続けてきたことが、「終わりよければ」ということになるのかも知れません。とは言え、川上小の教育活動は「終わりよければ」ということではなく、「終わりもよければ」と考えています。「当たり前のことを高度に」という私たち教職員の子どもたちへの思いは、１年間を貫く思いでもあります。こうした思いに応えようとする子どもたちの姿が、地道な積み重ねの上に確かな校風となり、川上小の新たな１０年の歩みに繋がると思っています。これからも、学校教育目標の具現化に向けて、教職員が一丸となって努力を重ねたいと意を新たにしています。

このひと月は、これまでの教育活動を踏まえて、一人ひとりの子どもの育ちをしっかりと見取り、子どもたちが自信をもって進級できるよう支援していきます。ご家庭におかれましても、お子様のこの１年間の育ちを振り返っていただき、学習面や生活面のみならず、身体面や精神面、友達関係のあり方など、成長として感じられたことをお子様にしっかりと伝えてほしいと考えます。そして、子どもたちが自分の成長を、他者との比較ではなく、自分自身の成長として捉えていくことができるようご支援いただければ幸いです。

本年度１年間、本校の教育活動に対しまして、保護者、地域の皆様方のご理解と、温かく見守り支えていただきましたことに、教職員一同心よりお礼申しあげます。